



地域歴史文化の形成拠点としての図書館：災害資料を伝える

宮本，博

(Citation)

歴史文化をめぐる地域連携協議会予稿集, 10:15-15

(Issue Date)

2012-01-29

(Resource Type)

conference object

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81003758>



地域歴史文化の形成拠点としての図書館

災害資料を伝える

兵庫県立図書館 宮本 博

1. 兵庫県立図書館

1974年10月開館 隣接する明石市立図書館と同時開館
計画段階から県立(市・町図書館支援)と市立(市民サービス)の機能分担
調査相談(レファレンス)業務 蔵書約58万冊
兵庫県に関する「郷土(地域)資料」の収集・保存
1995年11月「阪神・淡路大震災関連資料コーナー(フェニックス・ライブラリー)」開設
図書・雑誌・新聞・ミニコミ誌・パンフレット・チラシ・地図など
所蔵雑誌の記事検索

2. 阪神・淡路大震災後の対応

“震災資料”の認識 類縁機関の集まり
被災地で“資料”を集める ボランティアの力 被災者への呼びかけ 理解

3. 図書館で震災資料を集めること、伝えること

図書館で地域の歴史を学ぶ → 地域の歴史を作る

- (1) 図書館とは 地域住民にもっとも親しまれている公共施設 「地域の情報拠点」
無料 近くにある いつでもいつまでも 座って 自由に読める本や雑誌・新聞 時間つぶし
職員が対応 子どもからお年寄りまで 自由で開放的 個人の知的欲求を満たす
情報入手(身近な・行政・専門的な)・情報交換
博物館・資料館は専門的で難しい 貴重品 用意された展示をみる “受身”
図書館 多くの資料の中から求める情報を自分で探す、見つける
身近な図書館に地域の情報が集まる → 発信 → 集まる → 伝える
- (2) 震災(災害)資料 震災:特定の人や分野だけではなく、地域社会全体の経験
多くの経験者 皆が体験した、ありふれたもの
自分の体験を残したい、伝えたい 個人の思いがこもる
他者へ伝える:「情報」+ 後に残す意志 = 「記録」
被災地の情報を残そうと思った時点で「震災資料(記録)」が生まれる
個人の体験や思い → 地域情報(資料) 蓄積・集合体 [整理] → 地域の歴史
- (3) 震災資料の一般利用
いつでも、どこでも全ての人が被災者になる可能性 常に不安で気になる
しかし、“震災資料”は一般的日常的に頻繁に利用されるものではない
震災を“調べる”のではない 毎年の「1. 17」
ふと、何気なく振り返ったり、気になった時にすぐに手に取ることができる
→ いつも利用している身近な図書館に地域の資料(記録)がある